

南労会支部定期大会



認知症になっても自分らしく 私たちが勇気づけられた!

報告が遅れましたが、

昨年十二月十六日、NPOみなと合同ケアセンターのホールにて南労会支部定期大会を開きました。

南労会班・NPOみなと合同ケアセンター班・OB班の組合員が、委任状を含め三十名近く出席しました。この間、南労会を定年退職したOB班の組合員が増えましたが、職場を去った後も組合に残ってくれている組合員には感謝しています。

**改憲と戦争をとめよう！
介護福祉総がかり行動
をひろげよう！**

第一部は議案の討議・採択、執行部役員選挙

(全員再任)など。

安倍政権は改憲と戦争準備、労働法制解体、貧困の拡大と社会保障・税制の大改悪、なかでも生活保護引き下げと介護切り捨てを同時に激しく進めています。時代に対する不安や危機感を多くの人が感じています。

また維新勢力が「都構想」住民投票を十八年秋にやろうと蒸し返しをしています。

港合同の一支部として、地域の介護を担う拠点として、様々な運動団体、市民・住民の皆さんと共に、こうした動きの狙い、本質を見抜き、押し返していこうと確認しました。

**第二部 神矢さんと
お連れあいを囲んで**

一九九六年、南労会ストライキに対する刑事弾圧を機に共闘が始まった全国争議団連絡会議。第二部では、その中心的な活動家・神矢努さんとお連れあいの佐久間さんを、東京からお招きし話を伺いました。六五歳の神矢さんは二年前、若年性認知症に。佐久間さんは生活を共にして日常的にサポートをされています。

支部組合員以外の方も参加してくれ、大変有意義な時間となりました。

「神矢さんという人」

神矢さんは全通という

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！



笑顔で話す神矢さん（左）と佐久間さん（右）

労働組合の指令で闘った争議行為をもって不当解雇された元郵便労働者。二七年間も闘いぬき、二〇〇七年に解雇撤回、全ての賃金・権利回復、職場復帰を認めさせる完全勝利を治めました。

（私たちにも）今も慎ましい都営住宅へ暮らしです。今回は認知症当事者としての話をぜひ！とお願いで来て頂きました。

【認知症でも頼られて…】

ある日突然、家を出た道が分からなくなった神矢さん。どんなに不安で辛かったことか、佐久間さんも含めてどれ程の間さんも含めてどれ程の覚悟をされたかと想像するのですが……

認知症になつた後も、三百世帯が入る都営住宅自治会の役員を続けておられます。認知症を隠さず、役員を続けていいかと聞いたら、皆が快諾してくれ、今も『神矢さ

ん！これやって〜！』と頼られている存在。

【百二十冊の本を配り】

その陰には佐久間さんの地道な働きかけがありました。認知症当事者・藤田和子さんの「認知症になっても大丈夫」を、何と百二十冊も購入、「ぜひ読んで」と配って歩いたそうです。

住民には認知症を隠して暮らしている人、様々な障害者がいる、そんな人たちが暮らしやすくなることを願い、お二人は努力をされたんですね。

【夜は疲労感いっぱい】

記憶障害など認知症に

よる生活上の困難、バリアは山ほどあります。でも佐久間さんは「自分が介護者という一方的関係はイヤ」だし「当事者を尊重」という立場が鮮明。

神矢さんも色んな工夫と努力でバリアを克服し、ひとり外出や闘争参加、その他自分でできることを探し自分でされています。笑い、明るく話されましたが大変なご苦労です。

すぐ忘れる、物をなくす、道がわからない、乗り物に乗れない。なので大事なことはメモりたいが直近の話は忘れる、書く字、パソコン、計算も次第に困難に。財布や鍵は紐で身につける、「認



↓ 上の絵の右肩の2羽はシジュウカラの花子さんとキジバトの太郎さん。顔はお二人です



知症なので道や乗り物の乗り方を教えて」と書いたメモを持参する等。
「やる気満々」と明るく胸を張る神矢さん、
「一日・一日の緊張感をもって生きています。そのせいか、夜になると疲

労感がいっぱいです。：眠れないことが結構あります…朝はきついです」と綴っています。
「きれい！鳥たちの絵」
実はお二人、とても素晴らしい趣味の持ち主でした。佐久間さんが鳥の写真をとり、神矢さんがそれを水彩画で描く……

大きな紙に数十羽の鳥を描いた作品を贈呈して下さいました（写真）。東京銭湯めぐりの趣味も。
「自治会で認知症セミナー」
「団交や会議についていけなくなった」神矢さん。でも、認知症の先輩から学びながら認知症の仲間をいっぱい！つくり、活動幅を広げています。
都営住宅の自治会に働きかけて、認知症セミナーを開くことになりました。
「認知症になっても人生は終わらないし、お互いに支えあって、楽しく過ごしていきたいでしょう。一人で悩まず…困った時は一緒に相談しましょう」

と住民に呼びかけてます。
「何といっても前向き」
実に前向きに、明るく、素直に、二人で力を合わせて生きている姿が印象的でした。こうしてこれたのも争議を闘い培ってきた考え、価値観があったからと、佐久間さん。介護に携わる者として、また認知症・要介護者予備軍として大いに勇気と学びを頂きました。
「地底旅行」での交流会にもお付き合ひ頂き、お二人さま、ほんとにお疲れさま、感謝です。
認知症になっても大丈夫！
そんな介護、社会を共に実現していきたいです。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！